

第2回第2期豊川市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 議事概要

■日 時 令和元年8月23日（金）午前9時30分～

■場 所 音羽庁舎教育委員会研修室（4階）

■出席委員	豊川市スポーツ少年団 本部長	関口 龍一
	豊川市体育振興会連絡協議会 会長	小川 豊次
	豊川市スポーツ推進委員会 委員長	柴田 功己
	豊川市立小中学校長会 会長	小野 清隆
	元豊川市立南部中学校 校長	伊藤 博之
	豊川市体育協会 事務局長	北国 太郎
	豊川市スポーツ推進委員会 副委員長	神谷 美也子
■欠席委員	豊川市体育協会 副会長	浅野 博徳
	総合型地域スポーツクラブわすぽ一宮 会長	荻野 宏子
	豊川市社会福祉協議会 地域福祉課長	小林 弘行

■会議要旨

事務局より資料確認が行われた。

1. あいさつ

伊藤委員長 今日では24節気の白露ということで、朝は涼しくなってほっとしている。甲子園も終わって、いよいよ秋になっていくなという感じがする。このスポーツに関するアンケート調査報告書を事前に読ませていただくと、市民の皆様がスポーツに対して関心が高いと感じた。健康志向も含めて、これからの10年間について、豊川市の方向性をしっかりと定めていきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

2. 議題

（1）豊川市のスポーツに関する市民意識調査の結果について

（2）小・中学生の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査の結果について

事務局 資料に基づき説明。

伊藤委員長 事務局の説明に質問や意見はあるか。

小野委員 43頁をみると、子どものスポーツ機会の充実が一番期待されている。学校関係者としてはありがたいと思うが、その中で部活動の問題は避けられない。部活動にかかる期待は大きいにもかかわらず、全国的な流れとしては、部活動を縮小している。期待と現実のギャップを感じる。ただ、違う受け皿がどこまでできるのかといえ、まだすぐ

にできるものではないので、会議を通して色々なものが見えてくると良いと思う。

伊藤委員長 蒲郡、豊橋の小学校ではなくなっていくようで、海外のように地域でやっていくという形になっていくかもしれない。非常にニーズが高く、学校で何十年もやってきたものだが、これから変わっていく時代だと思う。

関口委員 要望になるが、アンケートの貴重な結果を他の自治体や国が同様の調査をしていれば、それらと比較していただきたいと思う。

事務局 現在、手元にはないが今後の策定の過程で調査し、提示できるものがあれば、示していきたいと思う。すべての項目は難しいと思うが、主要な設問を抽出して、参考になるようなところをお示ししたいと思う。コンサルタントとも話をしているが、豊川市のスポーツ実施率は比較的高く出ており、他の自治体よりはスポーツの盛んなまちづくりができている実感がある。

伊藤委員長 なかなか比較する資料がないかもしれないが、似たような資料はあるかもしれない。せっかくの資料なので使えると良いと思う。

その他に意見はあるか。ないようであれば、議題の（１）（２）について、事務局の提案通り承認するということで良いか。

（一同承認）

伊藤委員長 それでは承認とさせていただく。なお、アンケート調査の結果報告書は頁数も多く、非常に膨大なため、製本までに改めて事務局にて精査をお願いするが、修正等については事務局に一任としたいと思う。

（３）第２期豊川市スポーツ振興計画（仮称）の素案について

事務局 資料に基づき説明。

小野委員 「する」「みる」「ささえる」のそれぞれで課題があって、どれもバランス良く高めていこうというように聞こえたが、どれかに重点を置くということはしないのか。

事務局 なるべくバランスの良い書きぶりにしたいと考えてはいるが、やはり「するスポーツ」が中心になってくると思う。「するスポーツ」の周辺に「みるスポーツ」や「ささえるスポーツ」があると思う。そのため、どれかひとつということであれば、「するスポーツ」ということになると思う。ただし、例えば４月の策定委員会で関口委員からも赤塚山の観覧席を充実させると良いという意見もいただいたほか、アンケ

ート調査結果の自由意見の冒頭にもあるが、今後は「みるスポーツ」の整備も大事になってくると思う。また、「ささえるスポーツ」も目標指標の数値が高くない状況であるので、今後数値を上げる努力も必要である。今回のアンケート調査の結果からスポーツの好き嫌いは、「する」「みる」「ささえる」のいずれの活動にも影響を与えるということがわかった。そのため、スポーツに興味のない人ややっていない人どのようにアプローチしていくかが今後の課題となる。その点がうまく対応できれば、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」のいずれも振興できるのではないかと考えている。

伊藤委員長

スポーツ施設等の利用者数が毎年1万人ずつ増加させるということだが、人口が減少していく中で大変な数字だと思う。施設も充実しているが達成可能な数字であるのか。

事務局

挑戦的な目標値となっている。説明の中では、総合計画と同様の数字と説明したが、年間1万人ずつ増加させるのは大変な努力が必要だと思う。市が直接、施設の維持管理をするだけでなく、指定管理者によっても維持管理をしている。指定管理者には民間の活力、知恵や経験などを活かして、施設を維持管理するだけでなく、また自主事業も行ってもらう。そうした中で利用者の数を増やしていきたいと思っている。最近の目玉事業としては、陸上競技場の夜間照明を今年度予算で整備していくということも計画しており、順番に施設の整備をしていき市民に親しまれる施設づくりを進めていきたいと思う。

伊藤委員長

最近、夜になると道を歩いている人が多く、施設を使用しなくても、無理のない範囲で健康づくりをしている。

関口委員

アンケート調査報告書の30頁にスポーツ観戦についての数値がある。これは現場に足を運んで観戦した人の割合だと思う。これから高齢化が進んでくると、現場には行けないが観たいという要望も多くなると思う。観戦する媒体としてテレビなどもあると思うが、そこに地方自治体が関与するのは難しいと思う。現場には行かないが、スポーツに親しんでいて観ている人は結構いると思う。その人たちの数字も明らかにすることができれば良いと思う。

事務局

アンケート調査報告書の33頁をご覧ください。問16では、どこでスポーツ観戦をするかについて問を設けている。選択肢の中には、ご意見にあったように現場に行かない人でテレビ・ラジオ、インターネットなどの有料放送というものもあって、調査結果としてはテレビやラジオが多い結果となっている。インターネットなどの有料放送という選択肢は、前回の調査にはなかったが、今回から追加したと

ころ、そういう媒体によりスポーツ観戦をしている人も少しいるという結果になった。行政としては市内の観戦するところの施設整備については、かかわってくるが、民間のケーブルテレビやインターネットなどの有料放送を支援したり、かかわっていくことは難しいと思われる。情報発信等を工夫していくことはできると思うが、まずは市内のスポーツ施設で観戦していただき、スポーツを好きになってもらうよう努力することが大事だと思っている。当然、インターネットやテレビ・ラジオで観て、スポーツを好きになってもらえれば、ささえるスポーツやするスポーツに関与する人も出てくると思うので、そういうところには間接的ではあるが応援していきたいと思う。

伊藤委員長

来年には東京オリンピック・パラリンピックもあるので「みるスポーツ」も重要になるだろう。

その他に何かあるか。ないようであれば、議題（３）「第２期豊川市スポーツ振興計画（仮称）の素案について」を事務局の提案通り承認するというので良いか。

（一同承認）

伊藤委員長

異議なしということで、今後はこの基本理念に基づき、詳細な部分の策定を事務局で進めていただきたいと思う。本日、予定していた議題は以上となるが、何か意見はあるか。ないようであれば、以上で本日の議題は終了する。

３．その他

事務局

（各種事務連絡）

原田教育部長

あいさつ